

第三章 その他

第1節 参考資料

1 おおつ健康フェスティバル

高齢社会を迎えた今日、健康で生きがいをもって、人生を豊かに自分らしく、明るく暮らすことができる地域社会を実現するため、市民一人ひとりが健康を振り返り、あるいは体験を通して健康づくりを見直すきっかけとなることを目的として、平成3年から毎年実施している。

- (1) 日 時 平成30年10月21日(日) 10時～15時
- (2) テーマ あなたは大丈夫? 知って防ごう 生活習慣病
- (3) 主催 おおつ健康フェスティバル実行委員会
- (4) 場 所 明日都浜大津

(5) 内 容

- ・健康ウォーク

- ・式典、健康シールラリー

- ・ステージイベント

- ・Smile輝き人～カラダのチカラ～ 出演：太陽MEGURU

- ・みんなで一緒にマイケルダンス 出演：Masaki

- ・貯筋運動体験会 指導：株式会社ビバ

- ・事業内容

受動喫煙・生活習慣病予防、がん予防、歯の健康、糖尿病予防、簡易血液測定、CKD啓発、簡易貧血検査、骨密度測定、体力測定、体組成測定、栄養相談、健康フードの展示、食育啓発、マッサージ体験、介護予防、もの忘れ相談、自助具啓発、AED体験、手洗いチェック、メンタルヘルス、健康入浴啓発・毛髪診断、暮らしと食べ物の衛生



健康おおつ21シンボルマーク
おおつ げんき丸

研究および外部での講演等の報告について

【研究報告】

タイトル	大津市子ども発達相談センターで相談を実施した子どもの現状について ～思春期児童を中心に～
報告学会名	第16回日本小児心身医学会関西地方会
発表者名	大津市子ども発達相談センター ○龍田直子 松原育子
<p><要旨></p> <p>平成27年2月～平成30年3月までに相談を実施した子どものうち、小5～中3の605人(全体の25%)について、相談記録を用いて後方視的に調査し、相談支援の早期開始と継続的な支援によって、思春期年代に多い二次的な問題の緩和に寄与することの重要性を報告した。</p>	

タイトル	発達障害やその疑いのある思春期児童の親支援 ～保護者学習会の実践より～
報告学会名	第16回日本小児心身医学会関西地方会
発表者名	大津市子ども発達相談センター ○松原育子 龍田直子
<p><要旨></p> <p>当センターでは、思春期児童の相談が増加傾向にあることから、平成29年度より思春期児童の保護者を対象とした学習会を実施している。学習会では、POMS（気分プロフィール検査）などの質問紙を用いて、参加者にもたらされた効果を評価しているが、その結果も呈示し、学習会の概要と意義を報告した。</p>	

タイトル	保育所における感染症対策 ～各保育所への指導の振り返り～
報告学会名	第49回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	○西川幸恵、山本遥、安藤知穂、大泉聡志、片山克子、鳴海千秋、 中村由紀子（大津市保健所）、佐野実生（幼児政策課）
<p><要旨></p> <p>集団での感染症の拡大を防止する為、職員向けの研修や、保育所等での感染症の集団発生時に疫学調査・保健指導を実施することで、年々発生件数は減少してきている。しかし、毎年繰り返し感染症の集団発生を起こす同一施設が少数ながら見られることから、集団発生の再発防止に向け、保育所での発生事例を整理し、これまでの保健所の指導内容を振り返った。</p>	

タイトル	大津市における胃内視鏡検査による胃がん検診について ～立ち上げから現状まで～
報告学会名	第47回日本消化器がん検診学会近畿地方会
発表者名	<健康推進課>○平田史子、西本美和、木本知子 <保健所所長>中村由紀子
<p><要旨></p> <p>平成30年2月から胃内視鏡検査による胃がん検診を実施した。導入に当たっては大津市消化器がん検診協議会の下部組織として胃内視鏡検査準備専門部会を立ち上げた。部会では、胃内視鏡検査医や読影医の認定基準、検査方法と結果判定の基準、ダブルチェックの体制、また、胃がん検診（胃内視鏡検査）に使用する帳票類の原案等を協議した。準備段階で課題だったことは、「質の高い検診の実施と適正な精度管理」を行うに、33実施医療機関が同じ制度管理で、同じ安全管理体制をとって足並みをそろえていくことだったが、部会の委員の多大な協力のもと、実施医療機関への研修会や事業説明会を行うことで一定の体制づくりができたことについて、考察を添えて報告をした。</p>	

タイトル	胃内視鏡検査による胃がん検診開始一年後の現状と課題
報告学会名	第49回 滋賀県公衆衛生学会
発表者名	<健康推進課>○平田史子、西本美和、木本知子 <保健所所長>中村由紀子
<p><要旨></p> <p>平成30年2月から胃内視鏡検査による胃がん検診を開始し、一年が経過した。検診実施体制や検診実績、実施医療機関向けの読影会等を通して、「検診受診者数の伸び悩み」と「検診精度のばらつきと質の確保」の課題があがった。実績や事例についての考察、今後の対応策について報告した。</p>	

タイトル	妊娠期にある母親への参加型健康支援教育に関する研究（第4報） —大津市妊婦健康教室への参加促進—
報告学会名	第49回 滋賀県公衆衛生学会
発表者名	《中すこやか相談所》○飯田真理恵 田邊紗世 齊藤裕子 《滋賀県立大学》古川洋子 《ふちもと助産院》渕元純子 《大津市保健所健康推進課》岡野久美子 北村敦 白石智子
<p><要旨></p> <p>母子保健の向上に向けて、知識普及の一環として母親教室などの参加型健康支援教育を実施している。教室内容を可視化しイメージ化を図るため、DVD作成、健康教室案内の作成、健康教室の周知などの活動や、関係機関と連携して啓発を行った。健康教室の参加者促進に向けて活動したので報告した。</p>	

タイトル	大津市「いのちをつなぐ相談員」派遣事業について（第5報） ～事業開始から5年経過したまとめの報告～
報告学会名	第49回 滋賀県公衆衛生学会
発表者名	○山元莉恵、奥田由子、西尾加代、中村瑞枝、中島美和、鳴海千秋、 中村由紀子（大津市保健所） 西田大介、原田小夜（梅花女子大学）
<p><要旨></p> <p>5年間の支援対象者107人の相談記録データを基に、支援した自殺未遂者の支援内容を分析した。男性43名、女性64名で、保健所が支援した自殺未遂者の特徴は30代の女性が多く、精神通院中が55%、自殺企図の主な原因は家庭問題有りが40%と多かった。また、相談相手がいない人も17名と多かった。支援内容の特徴は、3日以内に6割以上の初回面接が実施でき早期に濃厚な支援を行っていた。保健所の介入により支援機関とのつながりが増え、6ヶ月以内の再企図率は、8.4%であり、非介入の再企図の12%より低く、再企図防止効果があった。今後生きていくための質の高い支援を行っていくことが必要と考える。</p>	

タイトル	乳幼児の保護者への効果的なポピュレーションアプローチの検討
報告学会名	第49回 滋賀県公衆衛生学会
発表者名	○藤本亜由美、高田沙織、後藤恭子、木林みどり、山元莉恵、大矢公江、 西川志穂
<p><要旨></p> <p>子育て中のエリア住民にアンケート調査を行い、育児支援のあり方について検討した。結果、「子育てでわからないこと」の項目では「食事の進め方」と回答した割合が最も多かった。また、子どもへの関わり方の項目では「子どもの気持ちがわからない」と回答した母親は自身が他者との人間関係を築くことに課題のある場合に多かった。食育講座や子どもの気持ちに寄り添うことの大切さに焦点を当てた母子講座「赤ちゃんの気持ちをのぞいてみよう」「いやいやキッズと楽しく過ごそう」の必要性を確認でき、今後も継続支援していきたい。</p>	

【講演等報告】

タイトル	大津市における在宅医療の充実に向けた取り組みについて
発表者名	大津市保健所 中村由紀子
講演会・研修会名	在宅医療及び医療・介護連携に関するワーキンググループ
対象者及び参加人数	ワーキンググループ構成員、傍聴人
年月日	平成 30 年 6 月 27 日
主催者	厚生労働省医政局 地域医療計画課
<p><要旨></p> <p>本市の在宅医療充実に向けた取り組みを好事例として報告した。</p>	

タイトル	胃内視鏡検診に関する話題提供
発表者名	滋賀県がん検診検討会胃がん部会部会長、大津市保健所長 中村由紀子
講演会・研修会名	消化器（胃）がん検診 従事者講習会
対象者及び参加人数	県内でがん検診に従事する医師、放射線技師、看護職等
年月日	平成 3 1 年 3 月 1 6 日
主催者	滋賀県、公益財団法人滋賀県健康づくり財団
<p><要旨></p> <p>胃内視鏡検診マニュアル 2 0 1 5 年版の解説。大津市の内視鏡検診実施状況、精度管理、安全管理について。</p>	

タイトル	臨床現場での食中毒患者について ～公衆衛生実践の現場・臨床医療の現場～
発表者名	大津市保健所 中村由紀子
講演会・研修会名	食品衛生監視員研修会
対象者及び参加人数	滋賀県内で食品衛生監視員をつとめる獣医師・薬剤師
年月日	平成 31 年 1 月 18 日
主催者	滋賀県食品衛生監視員協議会
<p><要旨></p> <p>消化器症状の患者（食中毒含む）に対する診察・鑑別診断・治療法および重症化機序について。</p>	

タイトル	大津市の発達支援システム
発表者名	大津市子ども発達相談センター 龍田直子
講演会・研修会名	第二回発達症医療ネットワーク研修会
対象者及び参加人数	医師 約 30 人
年月日	平成 30 年 5 月 19 日
主催者	ヤンセンファーマ株式会社
<p><要旨></p> <p>地域の中で、発達障害をもつ子どもと家族を支えるためには、総合的で一貫性、継続性、発展性を備えた仕組み（発達支援システム）が必要となる。発達支援の原則や小児期各期の支援の要点、などを講義し、大津市の状況についても報告した。</p>	

タイトル	発達障害について ～モデル事例を通して診断と支援の基本を知る～
発表者名	大津市子ども発達相談センター 龍田直子
講演会・研修会名	第 1 回発達障害児支援研修会
対象者及び参加人数	医師、看護師など医療関係者 12 人
年月日	平成 30 年 7 月 5 日
主催者	公益社団法人 大津市医師会
<p><要旨></p> <p>発達障害に関する基礎的な内容（概念、診断、治療や支援の原則、など）と、発達障害と診断される子どもの小児期の育ちについて、モデル事例も提示して説明し、ライフステージを見据えた支援の重要性を講義した。</p>	

タイトル	学校現場で必要とされる特別支援教育～医学的観点から～
発表者名	大津市子ども発達相談センター 龍田直子
講演会・研修会名	特別支援教育研修・教育センター夏季研修
対象者及び参加人数	市内幼稚園、保育園、小中学校の教員 約 100 人
年月日	平成 30 年 7 月 31 日
主催者	大津市教育センター
<p><要旨></p> <p>子どもの発達や情緒的課題に対する医学的判断は非常に重要であるが、発達障害児支援は、医療のみで完結するものではなく、医療、福祉、教育、保健等の相互連携の上に成り立つものである。そういった支援に関する基本的な考え方や、診断や薬物療法など医療的支援について、教育関係者の適切な理解につながることを目的に講演を行った。</p>	

タイトル	小児科診療で出会う心身症や発達支援への取り組み
発表者名	大津市子ども発達相談センター 龍田直子
講演会・研修会名	児童思春期・精神保健医療研修会 (滋賀県児童思春期・精神保健医療体制整備事業)
対象者及び参加人数	医師、県内の関係職員 約 100 人
年月日	平成 30 年 9 月 22 日
主催者	滋賀県・滋賀医大
<p><要旨></p> <p>子どもの心の診療や発達障害児診療のニーズが高まっている昨今、一般小児科医がそれらに携わる機会も増えている。心身医学は、小児科診察の基本であり、発達支援にも通じるものであることから、心身医学的な病歴の聴取やアセスメント、地域連携などについて講演した。</p>	

タイトル	発達障がいのことを学びあう ～子ども発達相談センター業務を通して～
発表者名	大津市子ども発達相談センター 龍田直子
講演会・研修会名	おおつ地域福祉未来塾研修会
対象者及び参加人数	地域の支援者 約 50 人
年月日	平成 30 年 11 月 20 日
主催者	おおつ地域福祉未来塾
<p><要旨></p> <p>発達障害や発達支援に関する基本的内容を具体的に講義したのち、大津市の発達支援のしくみや子ども発達相談センターの概要を説明し、地域への周知を図った。</p>	

タイトル	大津市の支援システム ～医療と地域の連携強化を目指して～
発表者名	大津市子ども発達相談センター 龍田直子
講演会・研修会名	第 2 回発達障害児支援研修会
対象者及び参加人数	医師、看護師など医療関係者 22 人
年月日	平成 30 年 11 月 22 日
主催者	公益社団法人 大津市医師会
<p><要旨></p> <p>医療と地域の連携強化を目的に、大津市の発達支援のシステム（乳幼児健診から学齢期の支援まで）について、子ども発達相談センターの概要や実績もあわせて講演した。</p>	

タイトル	発達課題をもつ子どもの育ち ～二次的な問題を防いで思春期を超える～
発表者名	大津市子ども発達相談センター 龍田直子
講演会・研修会名	第3回発達障害児支援研修会
対象者及び参加人数	医師、看護師など医療関係者 12人
年月日	平成31年2月2日
主催者	公益社団法人 大津市医師会
<p><要旨></p> <p>発達障害をもつ子どもの成長を支える上で、中核的な特性や症状だけでなく、そこから派生しうる二次障害についても知識を備えておく必要がある。周囲環境との相互作用の結果としての二次的な問題にはどのようなものがあるのか、それを防ぐために、地域で親子をどう支えていくとよいのか、について講義した。</p>	

タイトル	1・子どもの成長と心の発達 2・子ども理解を深めるために～ 子どもの気になる姿・かかわり・障害理解について
発表者名	大津市子ども発達相談センター 平野美香
講演会・研修会名	平成30年度 ファミリーサポートセンター 講習会
対象者及び参加人数	ファミリーサポートセンター会員、市民 各回 約30～40人
年月日	1回目 平成30年7月12日、2回目 平成30年9月11日
主催者	大津市ファミリーサポートセンター
<p><要旨></p> <p>大津市ファミリーサポートセンターでは、市民や会員向けに、子育ての知識を得られる公開での講習会や会員交流会を年間13回実施している。そのうちの2回において、幼児期の子どもの発達、障害や支援について、幅広い対象者に理解を深めてもらうことを目的に、講習会の講師を担当した。</p>	

タイトル	「就学後の相談を担当する支援機関からの報告」
発表者名	大津市子ども発達相談センター 平野美香
講演会・研修会名	平成30年度 療育関係者研修会
対象者及び参加人数	市立やまびこ園・わくわく教室・のびのび教室 職員
年月日	平成30年10月1日
主催者	大津市やまびこ総合支援センター
<p><要旨></p> <p>療育関係職員全体の研修の場で、就学後の相談を担当する立場から、幼児期の支援の重要性を伝えることを目的に、事例を通じて話題提供をした。また、子ども発達相談センターの相談状況について、あらためて療育関係職員に伝える機会となり、互いの役割についての共通認識を深めた。</p>	

タイトル	「大津方式について」～おとながつなが笑顔の輪～
発表者名	大津市子ども発達相談センター 松原巨子
講演会・研修会名	やまびこ園・やまびこ教室保護者学習会
対象者及び参加人数	療育利用中の保護者・療育教室職員 約 60 人
年月日	平成 30 年 5 月 22 日
主催者	大津市立やまびこ園・教室
<p><要旨></p> <p>やまびこ園・教室に入園まもない保護者の全員が初めて集う学習会</p> <p>① 療育が目指す発達保障の取り組みについて</p> <p>② 子どもの発達の捉え方と子育てで、親が心に留めて欲しいこと。</p> <p>③ 大津方式全体の発達保障システムを作り上げた経緯と、子どもと保護者・市民の願いと関係各職員との協同の成果の確認。今後の発展のための方向性。</p>	

タイトル	「大津方式について」
発表者名	大津市子ども発達相談センター 松原巨子
講演会・研修会名	大津市健康推進課・乳幼児健診学習会
対象者及び参加人数	約 20 人
年月日	平成 30 年 10 月 1 日
主催者	健康推進課
<p><要旨></p> <p>乳幼児健診を担当する職員への学習会</p> <p>① 大津方式の歴史</p> <p>② 公務員としての、障害者・発達障害者・発達支援を必要とされる方々が「個として」大切にされる社会を目指す理念を市民と共有する役割について</p> <p>③ 乳幼児健診に携わるものの役割、事例から学ぶ</p>	

タイトル	「大津方式に学ぶ」～保護者の思いに寄り添いながら保育をすすめるために～
発表者名	大津市子ども発達相談センター 松原巨子
講演会・研修会名	大津市 地域型保育事業 従事者研修
対象者及び参加人数	大津市の地域型保育事業に従事する職員 約 100 人
年月日	平成 30 年 10 月 20 日
主催者	幼児政策課
<p><要旨></p> <p>地域型保育事業に従事する職員への学習会</p> <p>① 大津方式の現状、乳幼児健診や個別の発達相談の役割、大津市の発達保障システムを</p> <p>② 子どもの発達の捉え方について。仲間と共に育ちあう保育について。保護者を支える役割。</p>	

タイトル	「大津方式について」～発達保障のしくみをつくる～
発表者名	大津市子ども発達相談センター 松原巨子
講演会・研修会名	仏教大学大学院
対象者及び参加人数	大学院生、研究生、行政関係者 約 20 人
年月日	平成 30 年 11 月 17 日
主催者	仏教大学大学院
<p><要旨></p> <p>大津方式の現状、乳幼児健診や個別の発達相談の役割、大津市の発達保障システムを伝える。</p>	

タイトル	0 歳から 5 歳までの発達について
発表者名	大津市子ども発達相談センター 松原巨子
講演会・研修会名	滋賀県院内保育所交流集会
対象者及び参加人数	滋賀県内の院内保育所・企業内保育所での保育に従事する保育職員 約 30 人
年月日	平成 31 年 1 月 26 日
主催者	大津赤十字病院内保育所
<p><要旨></p> <p>県内の病院内保育所や、企業内保育所の保育者を対象に、子どもの発達についての概要を伝える。</p>	

タイトル	食品安全のホント みんなに伝えたい！ ～食品安全リスクコミュニケーター育成・フォローアップ事業について～
発表者名	《衛生課》《井上 麻衣子》
講演会・研修会名	食品安全シンポジウム～徳島発リスクコミュニケーションの今後の展望～
対象者及び参加人数	一般市民、行政関係者、事業者等 105 人
年月日	平成 31 年 2 月 28 日
主催者	消費者庁、徳島県
<p><要旨></p> <p>消費者に対する啓発をより効果的に実施する為に、立命館大学との協働による官学連携事業として、行政と消費者との間に立ち、正しい食の安全情報を地域に発信する、食品安全リスクコミュニケーターの育成に取り組み知見を得たので、その概要を報告した。</p>	